

# 大和公民館だより

発行者 大和公民館

〒409-1203 甲州市大和町初鹿野 1693-1

館長(石田) ■■■■■ 主事(三枝) ■■■■■

## 旧甲州街道散策

### 「甲州道中」は江戸幕府により整備された五街道の一筋！！

「甲州道中」は、江戸日本橋を起点に5番目に整備された街道！！  
しかし、単なる五街道の一筋ではなかった！それは江戸城と甲府を結ぶ軍用戦略道であった？

江戸（日本橋）～内藤新宿～八王子～小仏峠～笹子峠～甲府を経て信濃国の下諏訪宿で中山道に合流する53里24町の街道で38宿場が置かれ、最大の難所と云われた険しい峠であった。

注）53里24町⇔210km 宿村大概帳による。

実は、笹子峠は江戸城を拠点とした戦略上の重要な峠道として位置づけられていとも云われている。

笹子峠最初の宿場「駒飼宿」に本陣・脇本陣が置かれた。

駒飼宿は、馬に水と飼い葉をやり休憩できる宿場であった。駒飼宿は、険しい笹子峠越の馬を馬蹄石で休息し水場と飼葉を提供する宿場であったことが名称の起源らしい。

山道の旧甲州街道から車道に入ると桃の木茶屋跡標柱前を通り、清水橋を渡って下り「天狗橋」を渡ると駒飼宿へと入って行く。橋を渡るとすぐの所に見える石碑は「芭蕉句碑」

### 稜負ふ 人を葉の 夏野哉

注）稜（まぐさ）は牛馬の飼い葉のこと。葉（しおり）は奥山で通った道の目印に木の枝などを折っておくと云う意味。駒（馬）飼い葉（枯草の餌）を背負う人が目印となる夏の野中である情景を詠っているものと想像される。

